

第13回世界遺産学習全国サミット in オンラインなら 開催報告書

日程：令和5年2月3日（金）・奈良市立辰市小学校
4日（土）・はぐくみセンター
オンライン Zoom より配信

1 目的

世界遺産学習に関する発表や優れた実践の交流を通して、教員の研修や市民への啓発の機会とする。また、世界遺産学習に関わる多様な人・分野・団体を結びつけ、新たな出会いを生むことで、世界遺産学習の深化・発展を図る。

2 大会概要

(1) 第1日目（参加者約330名）

①公開授業

奈良市立辰市小学校（以下、辰市小）の5年生2学級と群馬県藤岡市立美土里小学校（以下、美土里小）4年生2学級による学校間交流を行い、互いの地域の世界遺産や地域の遺産についての発表を行いました。

辰市小児童の発表では、メタバースを活用し、各グループに分かれて発表を行いました。美土里小児童は、各々がアバターを操作し、自由にメタ空間を移動し、発表を視聴していました。美土里小の発表では、Zoomによる画面共有を活用した発表が行われました。



両校ともクイズや寸劇など交えながら、それぞれの遺産について積極的な発信を行う様子が見られ、辰市小は、東大寺や春日大社など世界遺産学習現地学習での学びを伝え、美土里小は、富岡製糸場や高山社についての学びを伝えました。

発表後は、GoogleFormsを活用し、発表への質問や感想を記入し、辰市小担任のコーディネートのもと、交流を行いました。交流では、Zoomに参加した大人からも質問が投げかけられ、児童がそれに答えるなど、ICTを活用した新しい形での授業展開を見ることができました。

②辰市小学校取組発表

公開授業後は、辰市小から、学校の取組について発表が行われました。辰市小では、管理職のリーダーシップにより、学校全体のカリキュラムを再構築することに取り組んでいます。再構築の際の重点項目は、地域とのつながり、関係団体との連携、ICTの積極的な活用です。学校全体でカリキュラムマネジメントを行うことにより、教職員の意識改革が進むとともに、子どもたちの授業に臨む姿勢や態度に大きな変容が見られ

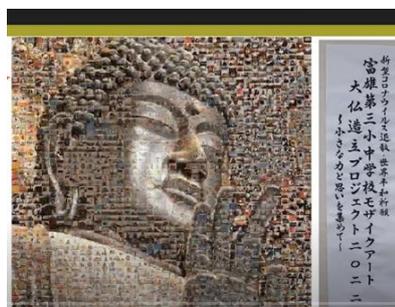
たことを成果としてあげられました。

(2) 第2日目 全体会、交流会（参加者約90名、YouTube視聴約100名）

①富雄第三小中学校による大仏建立モザイクアートプロジェクト

富雄第三小中学校からは、東大寺盧舎那仏像を題材にしたモザイクアートの取組について発表がありました。

聖武天皇が大仏建立の詔の際に「動植咸（ことごと）くに榮えむ」「一枝の草、一把の土を持って像を助け造らん」と発した願いに思いを寄せ、6年生が中心となって子どもたちが大切にしている「ヒト、モノ、コト」の写真を集め、東大寺大仏モザイクアートを完成させました。



発表の最後には、本取組を通して、富雄第三小中学校の子どもたちが「奈良にある素晴らしい文化財や伝統文化に対する誇り」だけでなく「歴史を受け継いできた人々の営みに対する誇り」「本物に触れることができた自分たちへの誇り」をもつことができたことを成果としてあげられました。

②奈良国立博物館及び大分県先端技術挑戦課によるオンライン中継授業

奈良国立博物館及び大分県先端技術挑戦課からは、アバターロボットを使って、大分県の離島に住む小学生と奈良市の小学生が教室にいながら、互いの地域の博物館を見学し合う先端的な取組について発表がありました。大分県先端技術挑戦課が開発したアバターロボットを子どもたち自らが操作し、博物館を見学する様子やその後の交流の様子が紹介されました。授業後の子どもたちの感想には「あっという間に時間が過ぎてもっと交流したいと思った。」「今日の見学で知ったことを家族に伝えたいと思った。家族と一緒に改めて博物館に行きたい。」といった言葉があったとのこと。

本来であれば交流することの難しい地域の子子どもたちがアバター等の先端技術を用いて交流を実現することができるという、これからの世界遺産学習の新しい展開の可能性を感じることで発表となりました。

③交流会Ⅰ（実践発表・有識者講演・意見交流会）

奈良教育大学教授の中澤静男氏にコーディネートいただき、学校教諭による実践発表、有識者による講演、意見交流会を行いました。

交流会Ⅰとして、まず奈良市立都跡小学校から、「当たり前前に存在している平城宮跡のありがたさ」についての実践発表がありました。平城宮跡に関わる人々や、他地域に住む小学生との出会い



を通して、子どもたちが、平城宮跡の大切さに気づいていく実践でした。発表者からは、地域人材の思いに触れたり、学校間交流を実施したりすることを通して、子どもたちが自己有用感を高め、地域への興味関心、愛着を育むことが成果としてあげられました。

次に、都跡小学校の発表を受けて、帝塚山大学客員教授である西山厚氏より「気づきの大切さ」「きっかけの必要性」をテーマにご講演をいただきました。富雄丸山古墳から出土した剣と盾形銅鏡や東大寺盧舎那仏に関わる子どもたちの活動を例にあげながら、「学ぶ」とは「気づく」ことであり、学びを工夫することが世界遺産学習の可能性を無限に広げていくことに繋がるということについてお話いただきました。

その後、実践発表と講演を受けて、約5人ごとのグループに分かれて意見交流会を行いました。それぞれの地域の遺産について紹介し合い、遺産を受け継いでいくためには、子どもたちに何を伝えていけばよいのかというテーマで交流を行いました。

初対面同士の交流ということで、どのグループも初めは緊張した雰囲気でしたが、徐々に緊張もほぐれ、活発な意見交流の様子が見られました。



④交流会Ⅱ（実践発表・有識者講演・意見交流会）

意見交流会Ⅱとして、奈良市立平城小学校から、「地域や世界遺産が抱える諸課題の解決のために子どもたちがいかに関わっていくか」についての実践発表がありました。

世界遺産の抱える課題を学習することを通して、子どもたちが自分たちの暮らす地域の課題について問題意識をもつことができた実践でした。発表者からは、普段、何気なく暮らしては気づきにくい地域課題への問題意識を高めることができ、持続可能な社会の担い手として素地を養うことができたことを成果としてあげられました。

次に、平城小学校の発表を受けて、奈良教育大学准教授の及川幸彦氏より、「持続可能な社会実現のための経済、社会、環境の包摂の重要性」をテーマにご講演をいただきました。これからの世界遺産学習の推進のためには、ESDやSDGsの視点を盛り込んでいくことが大切であり、そうすることで世界遺産学習が持続可能な社会の実現に貢献していくことにつながっていくとお話をいただきました。

2回目の意見交流会では、グループの緊張もほぐれ、1回目以上に活発な交流の様子が見られました。交流の最後には、参加者が持続可能な社会を構築するための手立てについての考えを伝え合いました。

⑤NHKによる先端的な世界遺産学習についての取組

NHKからは、NHK奈良放送局とNHKメディア総局展開センターから「世界遺産学習とNHKバーチャルの活用案」について発表がありました。NHK奈良放送局では、NHKがも

つ文化財映像を活用することで、新たな視点、方法で多様な学びの在り方を研究されています。今回は、メタバースを活用した世界遺産学習の新たな可能性について紹介されました。その例として、「メタバース修学旅行」をあげ、子どもたちがメタバース上で、修学旅行に訪れた他校の子どもたちをガイドしたり、学習コンテンツを子どもたちが考案したりしていくことが提案されました。

メタバースを活用することで、現実では見学することのできない文化財を見学できることやコンテンツを蓄積し、次世代へ受け継いでいけることなどをメリットとしてあげられていました。

(3) まとめ

今回のサミットでは、「時空を超える世界遺産学習」をテーマとし、オンラインだからこそ可能となる取組を重点的に発信する場としました。2日間で約500名の方々に参加（視聴のみを含む）いただき、オンラインによる学校間交流、先端的な技術を活用した世界遺産学習の取組発表、オンライン上での意見交流会など、これまでにないサミットの在り方を提示できたことは、意義深いことでした。

世界遺産学習はこれまで、世界遺産や地域の遺産に係る過去の偉人や業績について学び、その思いや工夫を未来につなげるという、いわば「時を超える学び」を大切にしてきました。そのような学びは、子どもたちの地域を大切に思う心を育み、自らのアイデンティティを確立する機会となると考えます。今回のサミットでは、「時を超える学び」に加え、今般のICTの発展により可能となった「空間を超える学び」をテーマとしてあげました。

2月3日（金）の辰市小と美土里小との学校間交流では、子どもたちが、遠く離れた地から交流を行い、自分たちの地域についての発表を行いました。子どもたちは、交流を通して、相手の地域だけでなく、自分たちの地域の魅力や課題に改めて気づくことができていました。このことは、まさに「空間を超える学び」が果たす大きな効果であったように思います。

また、2月4日（土）には、奈良国立博物館、大分県先端技術挑戦課、NHKから、先端的な技術を活用した世界遺産学習について発表いただきました。このような技術を積極的に、そして有効的に活用しながら世界遺産学習を推進していくことが、「時を超える学び」と「空間を超える学び」を合わせた「時空を超える学び」を実現し、子どもたちの学びを一層充実させていくことにつながるのではないかと考えています。

参加者による意見交流会では、地域の遺産を受け継いでいくために何ができるのか、現代社会が抱える諸課題の解決のために何をしていくべきか、といったテーマのもと交流を行っていただきました。現代的な諸課題を解決するための手立ては簡単に見つかるものではありませんが、参加者のみなさまと持続可能な未来を実現するための想いを共有することができたことは、持続可能な未来の実現のための具体的な行動化の

第一歩となったのではないかと考えています。

本サミットでは、様々な人々との出会いや先端的な技術の活用を通して子どもたちが学びを深めていく中で「持続可能な社会の創り手」となっていくことが、これからの世界遺産学習に大切であることを強く感じることができました。世界遺産学習がこれまでのあゆみの中で大切にしてきたものを引き継いでいくとともに、これからの世界遺産学習には何が必要なのかをしっかりと見据えながら、今後も力強く推し進めていくことが、子どもたちの豊かな学びと豊かな人生へとつながり、ひいては持続可能な社会の形成に寄与すると考えます。本市では、今後も ESD・SDGs を包摂した世界遺産学習の取組を一層推進していくために、全国の自治体・学校・企業・団体との連携を密に図ってまいります。本大会の開催にあたり、発表者のみなさまをはじめ、協議会会員のみなさまの多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。